

## 平成 30 年度第 3 回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

- 日 時： 平成 30 年 11 月 21 日（水） 14：10～16：02
- 場 所： 国立歴史民俗博物館大会議室
- 出席者： 大塚、岸上、木部、キャンベル、窪田、久留島、佐藤（信）、田窪、谷川、谷口、西尾、野家、林部、平川、三田村、安成、吉田（憲）、吉田（和）、劉の各評議員
- 陪席者： 小泉監事、山本事務局長、大崎機構長特別顧問、荒木日文研副所長
- 事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、企画課長、財務課長、施設課長、その他関係職員

### ○ 概 要：

議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

### 議 題：

#### （議事概要）

##### （1）平成 30 年度第 2 回議事概要について（資料 1）

機構長から、平成 30 年度第 2 回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

#### （審議事項）

##### （1）総合地球環境学研究所次期所長の選考について（資料 2）

機構長から、資料 2 に基づき総合地球環境学研究所長が平成 31 年 3 月 31 日限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、事務局から、当該機関の運営会議における次期所長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

#### （報告事項）

##### （1）平成 29 年度業務実績評価について（資料 3）

岸上理事から、資料 3 に基づき、平成 29 年度業務実績評価の結果について報告があった。

##### （2）平成 31 年度概算要求の状況について（資料 4）

窪田理事から、資料 4 に基づき、平成 31 年度概算要求の状況について報告があった。

##### （3）平成 28、29 年度機構長裁量経費外部評価について（資料 5）

窪田理事から、資料 5 に基づき、平成 28、29 年度に執行した機構長裁量経費の外部評価について報告があった。

##### （4）基幹研究プロジェクトの評価等について（資料 6）

窪田理事から、資料 6 に基づき、基幹研究プロジェクトの中間評価を行うにあたり、一部実施方法等を変更する旨の報告があった。

##### （5）研究環境基盤部会の審議の進捗について（資料 7）

窪田理事から、資料 7 に基づき、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会の審議の進捗状況について報告があった。

(意見交換)

(1) 視察後の意見交換（国立歴史民俗博物館）

教育研究評議会の前に実施した国立歴史民俗博物館の視察について、意見交換が行われた。また、窪田理事から、国立歴史民俗博物館と高エネルギー加速器研究機構との機構間連携・異分野融合研究プロジェクトとして「負ミューオンによる歴史資料の非破壊内部元素組織分析」が実施されている旨の補足説明があった。

(2) 平成 29 年度の事業報告について（資料 8）

窪田理事から、資料 8 に基づき、平成 29 年度に機構が実施した事業等の概略について報告があった。続いて、国語研副所長の木部評議員から「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」、日文研副所長の劉評議員から「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」についてそれぞれ説明があり、その後意見交換が行われた。主な意見は、以下のとおり。

- ・ 可視化・高度化事業の成果である、危機方言に係るモバイル型展示ユニットを調査した地域で展示する等の取組は、人文学の研究成果を地域に還元する一つのモデルケースとなり得る。
- ・ 可視化・高度化事業は、より広い範囲で連携の可能性が期待できることから、機構としてさらに広がりを持つよう、しかるべき組織で検討を進めて欲しい。
- ・ 基幹研究プロジェクト全体を俯瞰できる、成果報告会のような場を設けて欲しい。
- ・ 全機関における研究の成果や取り組み状況について、共通の展示方法でデモンストレーションができれば、文科省に対して良いアピールの機会となるのではないかと。

以上